

長期にわたり好中球に空胞を認めたことで Jordans 異常を疑った 1 例

◎武野 建吾¹⁾、榎木 美佳¹⁾、森田 唯花¹⁾、吉村 薫¹⁾、津田 勝代¹⁾、斉藤 真裕美¹⁾、胡内 久美子¹⁾、中村 文彦¹⁾
地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター¹⁾

【はじめに】好中球に認められる空胞は、全身性炎症反応時に、空胞変性としてしばしば認められる。今例も手術後に起こる炎症反応と捉えていたが、炎症が治まっても長期にわたり空胞が存在したことで、Jordans 異常を疑った症例を報告する。

【症例】80歳代 女性 6年前に胃癌で胃全摘術を受け、転移や再発もなく外来通院されていた。某年10月に腹痛を主訴にイレウスを認めたため加療目的で他院から紹介入院となった。緊急にイレウス解除術と整復術がおこなわれ、9日後に退院となった。現在は外来にて通院中である。

【入院時検査所見】末梢血液検査は RBC $3.31 \times 10^6/\mu\text{l}$, Hb 11.9g/dl, Ht 37.8%, PLT $14.7 \times 10^4/\mu\text{l}$, WBC $9.4 \times 10^3/\mu\text{l}$, Ly 5.4%, Mono 2.5%, Eosino 0.5%, Baso 0.1% N-Seg 91.3%であった。生化学検査は CRP 0.08mg/dL, Urea-N 16.9mg/dL, Cr 0.65mg/dL, UA 4.0mg/dL, Glucose 479mg/dL, ChE 256U/L, TP 7.1g/dL, ALB 4.3g/dL, LD 257U/L, AST 22U/L, ALT 25U/L, T-Bil 0.65mg/dL, GTP 20U/L, ALP 423U/L, CK 78U/L, コレステロール 157mg/dL, 中性脂肪 73mg/dL であった。

【経過および考察】本例は6年前より来院されていたが、標本観察の機会がなかった。今回、イレウス解除術後に、目視分類条件である left shift のフラグが立ったことで、標本観察において空胞を多数有する好中球に遭遇した。その時は殆どの好中球に10個程度の大小不同の空胞が認められ、重度の炎症による空胞変性と考えていた。その後も空胞は消えることはなく、単球、好酸球、好塩基球にも空胞を認めたことで Jordans 異常を疑い、脂肪染色のズダンⅢとオイルレッドO染色を試みた。すると空胞の一部は陰性ではあるが、小型の空胞に両者の染色が陽性を示した。以上より、空胞は中性脂肪によるものと考え、Jordans 異常を強く疑った。近年、心不全や冠動脈疾患を発症する中性脂肪蓄積心筋血管症(triglyceride deposit cardiomyovascuopathy: TGCV) という疾患概念が提唱された。TGCVのすべての症例に Jordans 異常が認められるとされており、Jordans 異常を検出することの重要性が明らかとなった。今後は目視鏡検を行う際、Jordans 異常も念頭において観察することを心掛けたい。連絡先:0742-46-6001(内線:2524)